



新十津川望郷会

会報 第二十三号

郷土の発展を願う
四年間、会長を務める



新十津川望郷会会長
中 井 唯 夫

マスクや手洗いの励行、不要不急の外出を控える等、会員の皆様も感染予防に努められたことだと思いますが、まだまだ安心できない情勢であります。

このようなことから、新十津川町では本年度の開町百三十年記念式典を主催者のみの小規模開催とし、来賓や町民をお招きしない形式での開催となりました。これに伴い、望郷会総会につきましても書面会議といったしましたことにご理解いただけますと幸いです。

令和二年度は、開町百三十年記念

事業として町に五十万円（主に積立金より）寄付を予定しています。ご意見を集約し、計画に沿って推進していくので、よろしくお願ひ申し上げます。

【災害を克服し集団移住の先人に感謝】
「今や諸氏力墳墓ノ地ヲ去テ：」

(1) 令和2年(2020)6月20日

新十津川望郷会会報

者が出る日もあり恐ろしく心配であ
れました。
北海道も一日に四十五名もの感染
要請、学校の休校など緊急事態宣言
が発表されるに至りました。

開町記念式での告諭の最初の税所篤
知事の言葉であります。明治二十二

年八月、未曾有の災害から北海道への集団移住が決定し、第一隊が十月十八日十津川村を旅立ち、二十二日大阪八軒屋に到着、翌二十三日大阪府附属土木官署出張所に二百戸七百九十人が集合し税所知事の告諭を拝聴して、多くの苦難に立ち向かう決意を固めたものと思つております。二十四日神戸港から貨物船で北海道へ出航して以降、第二隊、第三隊と続き、村民の四分の一にあたる二千六百余人が嚴寒の冬を空知太の屯田兵屋で過ごし、翌年当せん地へ入植、原始林の開拓に精を出し、現在の米どころ新十津川町の基を築いたもので、開町記念式典ではいつも感銘を受けております。

【四年間皆様のご支援で会長務める】

平成二十八年より皆様の温かいご支援ご協力を賜り心からお礼を申し上げます。

緊張したのは開町記念式典後の出番である締め括り挨拶と、万歳三唱の発声の役割であり、無事に務められ安堵しています。

また、グリーンパークに宿泊して

を偲び幼い頃を懐かしみ、交流・懇親を深め、皆様から好評を得ております。

今後とも多くの方が気軽に参加さ



【開町129年記念式典】中井会長による万歳三唱

～札幌、滝川、砂川、深川、 関東圏に、交流を深める 支部がござります～

興味のある方は、望郷会事務局（新十津川町役場総務課）TEL (0125)76-2131へお尋ねください。

該当となる地域の事務局をご紹介いたします。



**まちづくりの種を
大輪の花に**

新十津川町長

熊田 義信

秀峰・ピンネシリにそびえる木々が、
厳冬を乗り越え力強く新緑に染まる
とともに、水田では愛らしい幼苗が
まちを彩り、春の訪れを感じる爽や
かな季節を迎えてました。

望郷会員の皆様には、日頃より郷
土新十津川にご支援を賜り厚くお礼
申し上げます。

昨年は、私のまちづくり二期目の
スタートであるとともに、令和とい
う新しい時代の始まりでありました。
本町の基幹産業であります農業に
おいては、異常高温や夏場の低温な
ど、不順な天候により厳しい年とな
りましたが、農業従事者の皆様の努
力により無事に収穫を終えることが
できました。

本町の酒米は、全道一の作付面積
であることに加え、その品質につい

ても高く評価をいただいております。
高品質な酒米の安定生産に取り組み、
北海道の酒米生産の発展に尽くした
功績が認められ、ピンネ酒米生産組
合が、北海道産業貢献賞を受賞され
ましたことは誠に喜ばしいことであ
るとともに、これを好機と捉え、よ
り一層の発展を目指すところであり
ます。

酒米粉の活用にも取り組み、酒米
粉を製パン改良材として活用した二
種類のパンを全道のセイコーマート
で販売し、ご好評をいただきました。

また、西村京太郎氏、五十嵐威暢
氏に次ぐ三人目の応援大使として、
十津川村の観光大使でもある歌手の
さだまさし氏に、就任いただき、「二
つの十津川の大天使」として、母村と
の絆をより広くPRいただけるもの
と期待しているところであります。

これらの成果は、皆様の温かいご
支援により実現できたものと深く感
謝申し上げます。

さて、本年は、開町百三十年の記
念すべき年であります。

新型コロナウイルスの影響により、
記念式典が、来賓の皆様をお招きで
きない状況となってしましましたこ
とは誠に遺憾であり、会員の皆様に

対しまして、心よりお詫び申し上げ
ますとともに、皆様の日頃からの一
方ならぬご厚情に深く御礼申し上げ
ます。

先人が、伝統と文化を持ち続ける
第二の故郷を作り上げる決意を込め
「新十津川」と命名し、永く厳しい
開拓の試練との闘いの果てに、今日
に至るまちの発展があります。

百三十年の月日が流れた現在も、
先人の偉業に対する感謝の思いは日
一日と深まるばかりであり、これま
で脈々と受け継がれてきた不撓不屈
の精神を、聖火のごとく未来につな
いでいくことが我々の使命であると、
改めて気を引き締める次第であります。

今日の地方自治体を取り巻く環境
は、様々な問題が提起され、険しく
厳しい状況が続いているります。

しかし、この苦境にあっても、こ
れまで受け継がれてきた不撓不屈の
十津川魂は、今も我々の胸の中で、
より輝きを増しております。

スマート農業への更なる挑戦から
「格好いい・稼げる・感動する」の
新3K農業を形にした魅力ある農業
を推進する「農業の持続的発展」、
安心して子育てができる環境、子ど

もの生き抜く力の醸成など、子育て
支援と教育を核とした「人口減少の
抑制」、町民の生命・財産を守り、
安全・安心な暮らしを確保するため、
ハード・ソフト両面からの整備を見
据えた「災害に負けない強靭な地域
づくり」、五月七日に惜しまれながら
廃線となつたJR札沼線沿線の基
盤整備による「廃線を乗り越えた新
たなまちづくり」。

そして、この取り組みを実現して
いくための「健全財政の維持」。

これらを着実に進め、町民の総意
と英知を結集すれば、必ず道は開け
るものと確信しております。

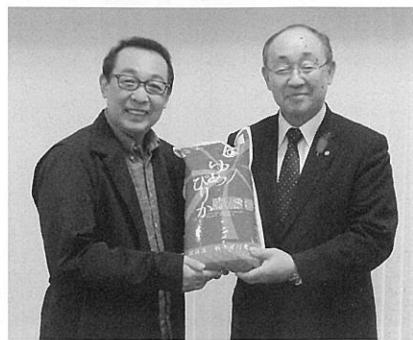
これまで蒔いてきた「まちづくり
の種」は、皆様の思いを太陽のよう
に浴びたくましく成長しています。
この種が大輪の花を咲かせるよう、
もつと前に、もつと未来に、更なる
努力を重ねる所存でありますので、
今後とも、より一層のご支援をお願
い申し上げます。

最後になりましたが、新十津川望
郷会が、益々発展されますことと、
会員の皆さまのご健勝、ご活躍をご
祈念申し上げ、会報に寄せてのごあ
いさつとさせていただきます。

町応援大使第3号は歌手のさだまさしさん！

昨年11月20日、さだまさしさんの事務所（東京都内）で、さださんご本人に熊田町長から新十津川町応援大使（第3号）の委嘱状を交付しました。

また、さださんからは、町民の皆さんへ向けて「思いを重ねてがんばりましょう」とのメッセージをいただきました。

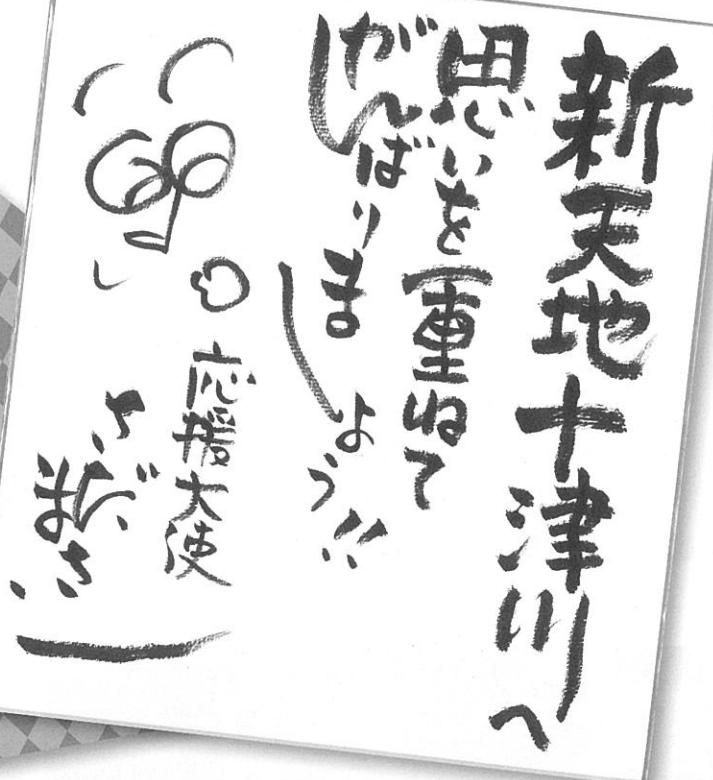


さだまさし masashi sada
プロフィール

職業：シンガーソングライター、小説家

代表作：北の国から、関白宣言（曲）

解夏、眉山（小説）



さだまさしさんは、母村（十津川村）の観光大使を務められているご縁で、更谷村長をはじめ母村の皆さんのご協力により、今回の応援大使就任が実現しました。



町応援大使第1号 西村京太郎 氏



町応援大使第2号 五十嵐感暢 氏

会報に寄せて



新十津川町議会議長

笹木正文

厳しくも少雪の冬がようやく過ぎ去り、心弾む季節を迎えたところでございますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、故郷新十津川町も心なしかひつそりと目に映り、人の世は花鳥風月の様にはいかぬものとつくづく感じている次第でございます。

さて、昨年は、地方統一選により議員の改選が行われた結果、二名の新人議員を迎えた新たな体制が整いました。

この体制の下、多くの町民の意見を集約すべく、住民と議員との意見交換の場をリニューアルし「くるま座ミーティング」「かたるベサロン」と銘打つて町内各地で十二回に亘って開催し、延べ二百一人の方々にご来場いただきました。

参加した皆様からは、地域公共交通への不安、地域防災力の向上、スマート農業の推進、教育の充実など三百件を超える数多くの声が届けられております。

私どもと致しましても、その声を真摯に受け止め、町政の発展に寄与できるよう微力ながら議員活動に心血を注いでまいりたいとの思いを抱き、議会広報「しんとつかわ議会だよりNo.八四」二〇二〇年五月号では、各委員会が取り組むべき事項を掲載

結集することに尽きたのではないでしようか。

そのためには、政府や北海道が示している感染症予防対策を更に心掛け、しっかりと守っていくことをすべての国民とともに行動していくべきものと存じる次第です。

さて、今年は、開町百三十年という節目の年であります。艱難辛苦を乗り越え、今日の新十津川町の礎を築いた先人たちの弛まぬ努力に感謝の祈りを捧げ、新型コロナウイルス感染症に対する予防・治療が確立するまでは、今できる的確な対策を講じつつ、来年に完成する新庁舎を楽しみとし、淀みなく前進している新十津川町をこれからも町民とともにしっかりと歩んでいきたいと存じます。

この度は、旧交を温める機会が中止となり、誠に残念ではございますが、奈良県、十津川村、そして、新十津川町の三者協定による事業も着々と進んでいく中、どうか、皆様におかれましても「新十津川町」という故郷にそれぞれの思いを重ねていただければと思うところでござります。

最後になりましたが、新十津川望郷会として、そして、新十津川町に生きる者として、まずは目の前の課題を一つ一つ解決していき、着実に時代に対応した町づくりを進め、しっかりと故郷を守り育て、そして、未来に向かって夢多き町にしていきたいと思うところでございます。

議会として、そして、新十津川町に生きる者として、まずは目の前の課題を一つ一つ解決していき、着実に時代に対応した町づくりを進め、しっかりと故郷を守り育て、そして、未来に向かって夢多き町にしていきたいと思うところでございます。

員の皆様の更なるご活躍、ご家族様のご健勝をお祈り申し上げ、会報に寄せての言葉とさせていただきます。



【新十津川小学校6年生議会見学】



【令和2年5月7日 臨時議会の様子】

みんなの声に応える

小玉委員長のコメント



住民の声にしつかり耳を傾け、住民が安心して暮らし続けられるための施策をしつかり検証していく。

特に地域公共交通や防災面は直近の生活課題と捉え、町が整備する方向性をしつかりと把握し、住民の声を反映した内容となるよう取り組みます。

住民の声を反映した地域公共交通の見直しを検証 地域防災力向上に向けた取組の検証

重点ポイント

総務民生常任委員会では、町民のみなさんからいただいた声の内容を協議し、所管課に協議する内容と調査事項とに分類、今後の委員会活動として取り入れていきます。

防災、公共交通の整備に向けた取組を重点的に調査検証！

鈴井委員長のコメント



これから町内の産業発展のために、様々な施設やインフラの有効利用が必要です。

特に、農業関連事業の諸問題を解決するために提起された問題について検討します。

一次産業と三次産業の融合したまちづくりを目指し、委員会の中で調査、協議を重ね、行政側に改善・提案をしていきます。

ふるさと公園リニューアル計画の詳細を検討 有害鳥獣被害対策の効果を検証

重点ポイント

経済文教常任委員会では、産業、教育文化に対する住民意見を協議し、産業振興課、建設課、教育委員会に対して意見・要望の申入れをしました。また、次の事項を重点項目として調査・協議することとします。

札沼線廃止後の観光施策に注目！

西内委員長のコメント



定数は「現状（十一人）でよい」とのご意見があつた一方、「減員して切磋琢磨を」「七～八人」とのご意見もいただきました。町政の現状や将来の展望を考慮しながら、住民の代表機関である議会の活動に必要な定数と、報酬について検討します。

議会活動の公開、住民と議会の情報共有については、現時点では「議会だより」「町議会フェイスブック」を活用しますが、将来的には、インターネット中継導入の検討も必要と考えます。

次期に向けた議員の定数と報酬を検討

重点ポイント

「くるま座ミーティング」や「かたるべサロン」でいただいたご意見を「議員定数と報酬」「議会・議員活動の見える化」「議会機能の強化」に分類し、対応を協議しました。「定員数」は期限を決め検討することとし、「議会・議員活動」はその見せ方を工夫します。

議会運営委員会

住民にとってより身近な議会を目指す！

総務民生常任委員会

経済文教常任委員会

ありがとう札沼線



JR札沼線（北海道医療大学～新十津川駅間）が、4月17日金にラストランを迎えた。85年の歴史に幕を下ろしました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止による政府の緊急事態宣言の発表を受け、ラストランは当初予定していた5月6日(水)から2週間以上早まることがなりました。

駅の来訪者は、急に訪れた札沼線との別れに戸惑いながらも、札沼線への思いを胸に、午前10時発の最終列車に手を振りながら最後の雄姿を目に焼き付けていました。



お別れセレモニー

新十津川駅前では、最終列車の発車前にお別れセレモニーが行われ、JR北海道の島田社長や熊田町長、笹木町議会議長などの関係者が参加しました。熊

当時はラストランが五月六日に予定されており、町観光協会や新十津川駅を勝手に守る会の皆さんがあつた美を飾ろうと準備をしていましたが、突然訪れたラストランを静かに見送っていました。

四月十六日夜に、JR北海道から札沼線のラストランが翌日十七日となることが発表されたにも関わらず、最終列車を一日見ようと、多くの町民や鉄道ファンが新十津川駅を訪れました。

田町長は、長年住民の足として活躍してきた札沼線に感謝の意を述べ、運転士に花束を贈りました。最終列車は二両編成で一六三人が乗せて新十津川駅を出発していきました。



札沼線のあゆみ

大正十年

石狩川右岸鉄道速成同盟会の会長を務める新十津川村出身の東武衆議が陣頭に立ち、政府と国会に鐵道敷設の猛運動を展開

昭和二年十月

札沼北線の沼田から工事着工

昭和六年十月十日

札沼北線の中徳富(現新十津川駅)～浦臼間(一二・八キロ)を開業し、上徳富駅・石狩橋本駅・中徳富駅(現新十津川駅)の三駅が新設

昭和九年十月十日

札沼南線の石狩当別～浦臼間(一一・三キロ)の全線を開業し、札幌～石狩沼田間

下徳富駅が新設

昭和十年十月三日

札沼南線の石狩当別～浦臼間(一一・三キロ)の全線を「札沼線」に改称

昭和十八年十月一日

太平洋戦争の激化により石狩当別～石狩沼田間の運行が順次休止し、線路を樺太鉄道線に転用

昭和二十八年十一月三日

雨竜～浦臼間の運行が再開

昭和三十一年十一月十六日

中徳富駅を新十津川駅に改称

昭和四十七年六月十九日

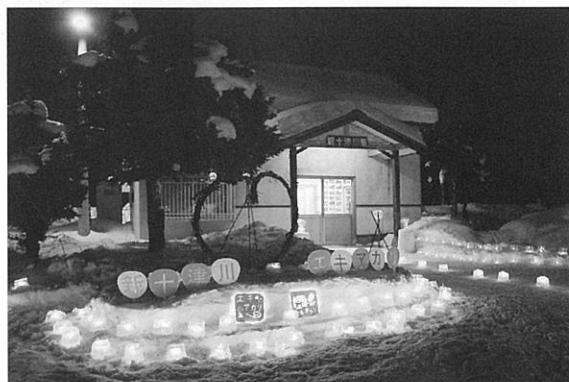
北上徳富駺と中徳富駺(現弥生区内)、南下徳富駺が新設



新十津川駅（ホーム側）



新十津川駅を出発するキハ40系最後の雄姿



エキアカリ



新十津川駅



南下徳富駅



下徳富駅

令和二年五月七日
北海道医療大学→新十津川駅間
(四七・六キロ) 廃止

令和二年四月十七日
観光列車「山紫水明号」が新十津川駅に運行
翌日十八日から五月六日まで
は運休

平成三十一年六月二十五日
町が廃止の受け入れを表明

平成三十年十二月二十日
沿線四町の浦臼町、月形町、当別町と本町が北海道医療大学→新十津川間の廃止に合意

平成三十三年四月二十七日
新十津川駅を勝手に守る会が三十一年ぶりに硬券入場券を発売

平成三十九年二月十一日
新十津川駅前をアイスキャンドルで灯したエキアカリを開催

平成三十九年四月一日
新十津川駅舎内に観光案内所を開設し、地域おこし協力隊が常駐

平成三十九年六月二十五日
新十津川駅を勝手に守る会が三十一年ぶりに硬券入場券を発売

平成二十八年三月二十六日
新十津川駅の発着が一日一往復となり「日本一早い最終列車が出る終着駅」となる

平成二十八年三月二十六日
新十津川駅が無人駅となる

平成二十八年三月二十六日
中徳富駅が廃止

昭和六十一年十一月一日
新十津川駅が無人駅となる

平成十八年三月十八日
中徳富駅が廃止

新十津川町トピックス

～まちの出来事～

令和元年6月18日

【ロボット・トラクター見学会】

ドローン・自動運転トラクター最新技術がここに

新十津川農業高校圃場で、新小児童と新十津川農業高校生330人を対象に、農薬散布用ドローンや、北海道に1台しかない自動運転トラクターの走行実験や説明が行われました。

子どもたちは最新の農業用機械が動いている様子を興味津々で見学していました。



令和元年6月28日

新十津川駅納涼祭

新十津川駅で、とつかわこめぞーや駅長犬の「ララちゃん」が出迎え、射的やたこ焼きなどを用意して、観光客を楽しませていました。

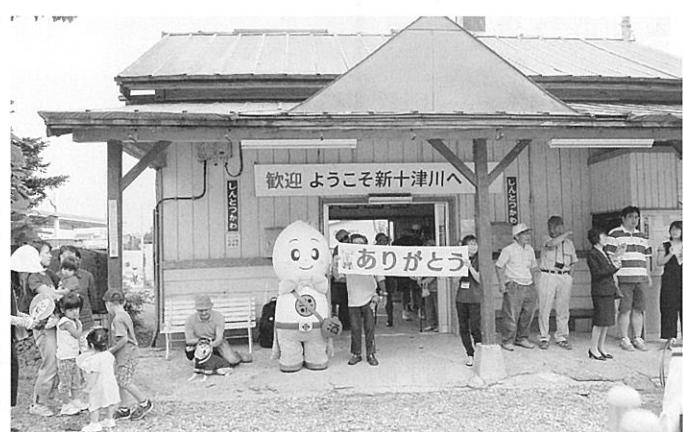


令和元年6月28日

【酒米シロップパンが給食に初登場】

やわらかくておいしい！

新小、新中、新十津川農業高校などで酒米シロップパンが給食提供されました。町は日本酒を作る際に出た酒米粉を利用して甘味料（シロップ）を開発しました。酒米シロップが使われたコッペパンは、普通のパンよりも甘みがあり、柔らかく仕上がります。子どもたちは「柔らかくていつものパンと違う」「また食べたい」と話していました。



令和元年10月12日

新十津川開駅88周年祭 & 駅マルシェ



札沼線体験乗車や、駅前で特産品の試食などを行いました。翌13日には、各地の地域おこし協力隊が出店し、会場を盛り上げました。

令和元年11月17日

【体育協会創立50周年記念】

トップアスリートによる講演会

新十津川体育協会創立50周年を記念し、元プロ野球選手の森本稀哲さんをお招きし、あきらめない心や、コミュニケーションの大切さについて講演しました。



令和元年11月22日

交通安全指導員会

創立50周年記念式典・祝賀会

交通安全指導員会（昭和44年設立）の創立50周年を記念して、記念式典と祝賀会が開催され、約70人が出席しました。

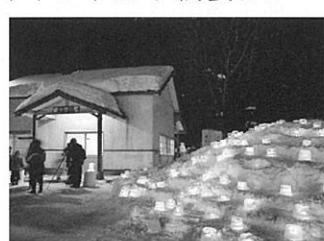


令和2年2月1日

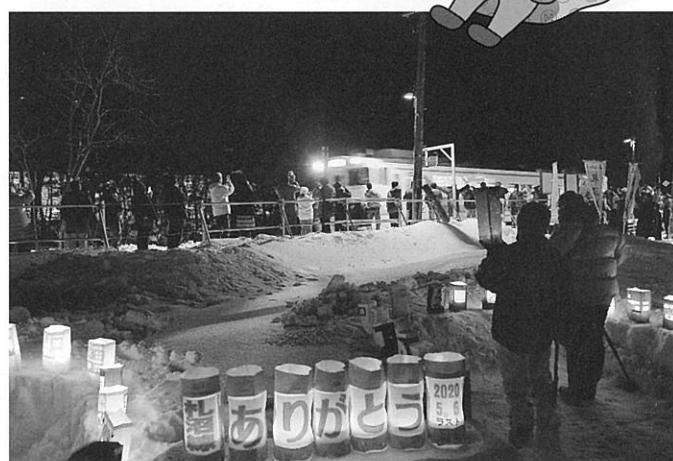
【新十津川駅】

エキアカリ

新十津川駅で、アイスキャンドルや紙袋ランタンで夜の駅を灯すイベントが行われました。



幻想的な新十津川駅に、夜の臨時列車が4年ぶりに到着しました。



令和2年2月14日

北海道産業貢献賞受賞

ピンネ酒米生産組合が、高品質な酒米の安定生産に取り組み、北海道の酒米生産の発展に尽くした功績が認められ、北海道産業貢献賞（農業関係功労者）を受賞しました。

全国大会・全道大会へ 翼ばたく!! 新十津川っ子!!

剣道・吹奏楽 全国・全道大会出場



新十津川中学校剣道部男子団体、女子団体、男子個人（佐藤恵一さん、加藤隆斗さん、小野師童さん）、女子個人（中鉢絢乃さん、西川実佑さん、浦上藍さん）が中体連全道大会に出場しました。



新十津川中学校剣道部男子団体が、第40回北海道中学校剣道大会で2年連続の優勝という優秀な成績を収め、第49回全国中学校剣道大会（8／21～23大阪府）に出場しました。



新十津川尚武会が小学生の部と中学生の部、中学個人の部（佐藤恵一さん）で北海道予選を突破し、7月29日に開催された第54回全国道場連盟少年剣道大会に出場しました（個人の部は12月新潟県）。



新十津川中学校吹奏楽部が、第41回空知地区管楽器個人。アンサンブルコンクールの木管8重奏部門で金賞を受賞し、札幌で開催された第51回北海道アンサンブルコンクールに出場しました。

ピアノ 全国大会出場



新十津川小学校5年佐藤稟さんが北海道地区大会で予選を突破し、6月22日から東京で開催された第11回グレンツェンピアノコンクール全国大会に出場しました。



保育園生斎藤野乃花さん、新十津川小学校2年山本胡桃さん、3年佐藤花さん、4年吉井風花さん、5年佐藤稟さん、新十津川中学校1年岩田和さん、清水花菜さんが、2月1日～11日に東京で開催された第10回日本バッハコンクール全国大会に出場しました。



バドミントン 全道大会出場



新十津川小学校2年賀川実唯さん、4年池田一栄さん、5年賀川柚音さんが北空知地区予選会を突破し、6月15・16日に開催された第20回ダイハツ北海道ABCバドミントン大会に出場しました。



新十津川小学校5年賀川柚音さんが1月11日～12日に音更町で行われた第33回全十勝小学生オープンバドミントン大会にて小学5年生以下女子シングルスで第3位の好成績を収めました。

スラックライン 全国大会出場



山森さほさん(新十津川小学校6年)が、ギボンカップ2019で優秀な成績を収め、9月28日から東京で開催された第10回日本オープンスラックライン選手権大会に出場しました。

野球 国際大会出場



新十津川中学校2年熊谷陽輝さん(空知滝川リトルシニア所属)が、北海道選抜チームに選出され、第17回日台国際野球大会(12/25～1/3台湾)に出場しました。

日ハムスポーツキャラバン

9月28日から30日にかけて、日ハムスポーツキャラバンが開催され、子どもたちは、それぞれのスポーツで一流の指導を受けました。



「広報しんとつかわ」の購読をはじめませんか?

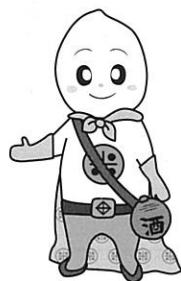
毎月15日に発行している町広報誌「広報しんとつかわ」の購読をはじめませんか?

「広報しんとつかわ」は、主要な町政課題や政策、町の新しい動きなどを特集するとともに、町民生活に密着した生活情報、議会情報のほか、まちの出来事、活躍している人や団体の紹介など、様々な「新十津川の情報」を掲載しています。

購読料：年間1,344円（送料込 4月号から翌年3月号まで）

購読を希望される方は…

- 1 新十津川望郷会事務局へご連絡ください。ご連絡いただくのは、氏名、住所、電話番号です。
- 2 振込手数料のかからない振込用紙を送付いたします。
- 3 振込が確認できましたら、4月号から振込いただいた月の号までまとめて郵送します。
- 4 翌月より毎月号を郵送します。
- 5 翌年4月にその年の購読確認をさせていただきます。ぜひご検討ください。



《名刺をつくりませんか？》

望郷会PR事業の一環として、会員の勧誘や日頃のお仕事で新十津川町をPRしていただきため、町の風景や建物を入れたオリジナル台紙を活用し、望郷会員の希望者の方に名刺をお作りします。名刺は、1種類100枚単位とし、会の予算で作成しますので、ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

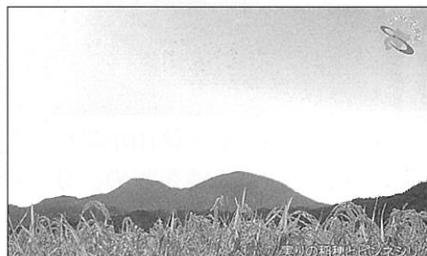
【名刺台紙の例】



△札沼線・終着の新十津川駅



△新十津川尚武館



△実りの稲穂とピンネシリ

会員の皆さまへ（お願い）

新規望郷会員のご入会を募るため、同窓会などの集まりが開催されるときは、事務局まで、ご連絡をお願い申し上げます。（望郷会新規会員募集チラシを送付させていただきます。）

印刷 株須田製版 滝川営業所	電話〇一二五ー七六一ー二三一 小林透	発行 新十津川町字中央三〇一番地一 新十津川町役場内 事務局長（新十津川町副町長）	令和二年六月二十日発行 〒〇七三一ー〇三	新十津川望郷会会報 第二十三号	
----------------------	-----------------------	--	-------------------------	----------------------------------	--

新十津川望郷会報第二十三号を発刊するにあたり、役員並びに会員の皆さまには様々なご協力を賜り、心からお礼申し上げます。次号の発刊に際しては、会員の皆さまから多くのご投稿をお待ちしております。
 （投稿される方には原稿用紙を送付させていただきますので、事務局までお電話等でご連絡くださいますようお願い申し上げます。）

編集後記